

3.18 教学弾圧抗議集会

場所 墨田公会堂（両国駅下車）

時間 5:00 開場

講演

小川潤次郎
檜山 和彦
日大教員共斗代表
東大助手共斗代表
日大全共斗代表

- 。統計学科の圧殺を許さないぞ！
- 。教学弾圧を粉碎するぞ！
- 。古田体制打倒！
- 。日大・東大闘争勝利！
- 。全ゆるるところで「日大闘争」を！

全ての日大教員・学生諸君！

血迷った古田理事会が生産工統計学科に対し演じた犯罪行為に対して、彼らに対する激怒の念を新たにされたことと思う。

怒りは日大だけにとどまらず、数学界、各大学数学科、更に学園闘争を担う全ての先進的インテリゲンチヤを奮いたたせ、古田川大塚への反撃を開始せしめた。

全ての先進的労働者・市民・学生の皆様。現在日大にある“狂った状況”は、マスコミを通してさえも周知のことと思う。佐藤栄作を代表とする日本会が日大闘争の圧殺に奔走し、右翼暴力を使つての授業監視、更には教授会の機能すらをも無視した統計学科入試への介入といった狂気の沙汰が繰り広げられている。更に政府自民党は、国民に反動的教育を押しつけるため、その障害となる先進的教員を追放するという大学への第二のレッドパージを用意してきている。

古田体制下の日大には、学問・思想の自由はおろか、学生の自治さえも許されていない。古田理事会は常時の機動隊導入によつて大学の自治を国家権力に売り渡し、更に学内での教員・学生への弾圧による恐怖政治を展開し、最近においては、生産工・工・歯・農獣医・法学部等における教員・学生への解雇出校停止の処分へと発展し、彼らの攻撃は一切の手加減もなく展開されている。

先進的な日大教員・学生は今こそ古田に反撃を加えるべき時である。古田の死か我々の死かをかけて。

△三・一八抗議集会実行委員会△

【全ての先進的教職員諸氏へ】

三月四日付新聞で報道された、日大(生産)統計学科に加えられた、古田大塚による弾圧行為を、自己への恫喝・弾圧として、震憾しながら読んだことと思う。否むしろ、全ての教職員諸氏が、自らの職場の現在の状況としてそういつた困難と危険とを身をもって感じていてのことと思う。新生古田体制は日大斗争を彼らに有利に転回させ、今日新星の如く登場し、日大斗争を担う全共斗を中心とする先進的部隊に対する、官憲と一体となった徹底的弾圧を開始した。先進的教職員に降りそそぐ現在の弾圧の嵐は、全共斗に加えられた武力的・弾圧的なものというよりも、より陰險な形態をとり、学問・思想に対する弾圧が今まで以上の強力さでもって迫ってこよう。

【国家権力の学問思想への介入を許すな】

今日学園斗争一般にみられる如く、国家が直接に大学の自治をおびやかす中で、自民党が第二のレツドパーヅをはのめかし、更に大学には常時機動隊が入ってくる状況が作られていった。そして今日本大学で展開されんとしている反動化の嵐は、まさに国家権力のそ

ういった学問・思想弾圧の一環としてあるのだ。

学問・思想の一般的な自由は、確かに、今日では体制内化し、学者が脱イデオロギーという体制イデオロギーの流布をもたらすことによつて自己の身の保全を体制側に期待する事情を産み出している。がしかし、そういつた体制への学者の巡礼の止まる時、体制側の徹底的な破壊がある。

古田体制によつて、生産工を筆頭に全日大に加えられている恫喝は、単に我々が反「日大」的行為をしたことにあるのではなく、我々の学問・思想の存在が古田体制並びにその背後にある国家権力にとつて不都合だという理由に基づく以外の何物でもない。

【真に守るべき学問を】

82年文理教学科事件、今回の統計学科事件、更に自民党の第二レツドパーヅ策動等々、今日の体制権力は本腰をいれて大学内の先進的インテリゲンチヤの追放を打ち出している。現在我々が大学において守るべき橋頭堡は、単に一般的に流布された学問・思想の自由でもなければ、体制側に押しつけられた学問・思想の自由でも勿論ない。まさに我々がこの日大斗争

を通じて自らの感覚によって培い、過去の自らの体制的感覚を徹底的に否定する中から生まれた、新たな学問・思想への門出なのだ。

【反逆のゲットーを築け】

大学人を中心とするインテリゲンチヤが、学生・労働者に対してなしてきたところの、大衆の体制への従順を迫り、指導するという犯罪性は、現在の知識人階層のどんな先進的な斗争をも免罪符としない原罪である。インテリゲンチヤの職業的行為がそういつた犯罪の再生産過程としてあるならば、知識人階層が今大学においてなさねばならない任務は極めて明らかである。即ち、我々は自らがそういつた体制的従順の姿勢を打破し、自らが反体制的イデオログの中心となり、より強固に大学を反逆のゲットーとなすべきである。

現在、日大においては、古田理事会の攻勢の中で、次々と先進的教職員への恫喝と戦斗的學生への弾圧が操拵げられている。

工学部加藤教授、歯学部四教員、統計学科、文理某学科等々に対する極めて反動的恫喝のラジカリズムが支配し、斗う芽を一つ一つ消散させようとしている。今我々に必要なことは、こういつ

た反動攻勢を単に当該者の個人的抵抗を静観するのではなくして、斗う教員の大衆的登場により、彼らの攻撃に対抗し、逆に古田打倒の現実化へと進んでいくことである。

3・18抗議集會に 結果せよ

斗う教員の先進的部分は3・18集會の提起した内容を直視した古田反動理事会に対する過去以上の追撃を企画しなければならぬ。彼らの血迷った攻撃が単なる居直りや、単なる反動としてあるのではなくて、全共斗を中心とするねばり強く斗う部隊の存在に震憾し、今又古田体制の弱い環を未だに隠蔽しえず、自らの体制を堅持しえない状況の中で、追いつめられた彼等の血迷った反撃とみななければならない。今こそ我々は、こういつた古田理事会の居直りを逆に転用しつつ、古田体制打倒の為に、教員の中に反逆のゲットーを作らねばならない。

